

公開講座

日米における古くからの農法から 農業のサステナビリティを学ぶ



北海道大学
サステナビリティ・ウィーク2017
Hokkaido University Sustainability Weeks 2017

開催日時 2017年8月8日(火) 13:30~16:30

主催 北方生物圏フィールド科学センター

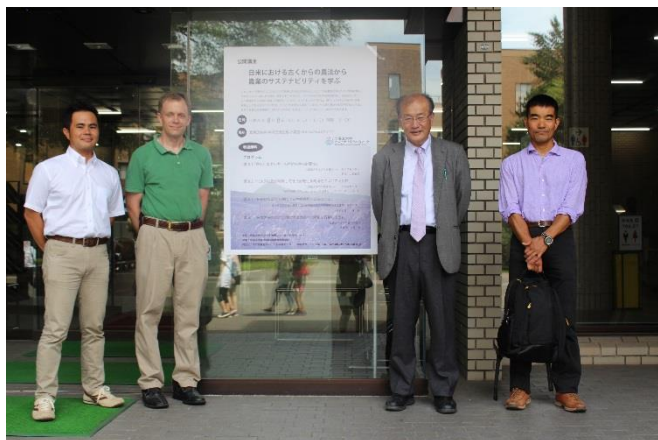
会場 学術交流会館 小講堂

日本の九州・阿蘇地方に広がるススキ草原は千年以上の昔から、そこに住み農業を営む人々が牛馬を飼い、草を利用するために手を加え、維持されてきました。アメリカ南西部半乾燥地域では、原住民によりアガベ類植物が伝統的に栽培・利用されています。ススキおよびアガベ植物は、現在、バイオエネルギー作物候補としても注目されています。そこで、日米異なる環境下の成立した持続的農地生態系を知るとともに、将来の人口増加や急激な気候変動の緩和のために必要な食料やエネルギーの持続的生産技術を開発するヒントを得ることを目的に、本講演会を開催しました。

日本からの研究者はススキについて、アメリカの研究者はアガベ類植物について、それぞれ持続的生産に優れていることを紹介しながら、今後の利用の可能性に関する講演が行われました。なお、アメリカの研究者は本学の招へい教員であります。

参加者は本学の学生18人（日本人学生12人、留学生6人）、教職員4人、市民15人の計37人でした。会場からはススキやアガベの特徴について多くの質疑がだされ、活発な討議が行われました。

講演者は本講演内容についてJSPS二国間交流事業への申請を検討しており、本講演会を発展させて、今後アメリカで国際シンポジウムを実施したいと考えています。さらには、日米2国間での国際共同研究をめざして、研究資金制度への申請も考えています。



講演者の集合写真



山田教授の講演の様子